

Book Review 29-2 短歌・俳句・川柳 #アボカドの種

句集『#アボカドの種』を読んできた。

『#サラダ記念日』で与謝野晶子以来の大型新人類歌人誕生！と称賛された著者も還暦を迎えている。そんな近況をNHKで特集していた。

内容も恋の歌から息子との関わりや病気、老年の生き方によって変わってきている。（歌の内容から推察するに胃のリンパ腫に罹患したようだ）。

その中から数句

「息子十九「プロフェッショナル」出演の 打診をすれば秒で断る」

「アボカドのサラダ作ってあげる事 もうないだろうレシピ聞かれる」

「放射線からだに降らすこの春の 白湯と桜の日々をいつくしむ」

「息子から連絡はなく母の日は 私が母を思う日とする」

「日が昇るラッキーセブンの幸せの 東病棟 748 号」

「遺伝子がコピーミスして DANCER が CANCER になる如月の夜」

妻は、毎日新聞の川柳欄（万柳）に投稿を続けている。5か月間掲載がなかったが、最近秀逸で載った。その句が「さきに見て 載ってないねと 言わないで」。丁度誕生日頃だったので、バラを抱えた夫婦写真と句の掲載をLINEで知らせたら、写真家である長女から「関係性と状況と心情」が出ていると評価された。写真もそんなことを考えて撮っているのか。